

ハ一モ二一

日本養護教諭教育学会
第24号 2000年11月24日発行

日本養護教諭教育学会

事務局：〒310-8512

水戸市文京2-1-1

茨城大学教育学部

大谷研究室内

TEL029-228-8298

(Fax 兼用)

振替口座:00880-8-86414

目 次

第8回学術集会を終えて……………	2, 3, 4
第8回学術集会アンケート結果……………	5
ホットニュース 最近のトピックスより……………	6
教育職員免許法改正に伴う養護専門科目の充実 に関する意見書について……………	6, 7
「養護教諭の英訳および本学会の英名に関する ワーキンググループ」の参加者募集について……………	8
学会共同研究「健康教育に必要な養護教諭の研 究能力について考える」の研究員決定……………	8
「第9回学術集会の企画に対する要望」の募集……………	8
事務局より……………	8

第8回学術集会を終えて

実行委員長 松 嶋 紀 子
(大阪教育大学)

あっという間の1日でした。実行委員、協賛企業・団体、アウィーナ大阪等の皆様の惜しみないご協力をいただきながら、1年がかりで1つの作品を作ったような気持ちです。参加者の皆様によって完成させることができました。

詳細は学会誌にまとめられますので、簡単に振り返ってみたいと思います。堀内久美子先生の基調講演に続いて、徳山美智子先生座長のシンポジウムは、発言者を制限しなければならぬくらい、活発なご発言をいただくことができ嬉しい限りでした。「養護学」ということに対する皆様のご関心の強さを知りました。是非これからも、多くの機会にご議論を深めていただきたいと思います。

総会に時間がかかり、昼食の時間にしわ寄せされて残念でした。昨年反省のもとに、総会を午前中に移動させましたが、もう一考が必要なようです。

午後の研究発表では、たくさん発表していただき、有難うございました。来年も今年を上回るご応募がいただけるよう祈ります。フロアからのご発言が多く、ベテランからは、発表者にアドバイスや励ましをといった風で、誠に充実していたと思います。

座長には、ベテランに加えて初体験の方も多く登壇していただきましたが、見事に進行されました。なお、ご発表のうち時間制限がなされた場合がありますが、運営上やむを得ないことでした。ご発表は時間内に納るよう準備されるよう望みます。

最後になりましたが、今回より入会された皆様、心より歓迎いたします。共同研究などに参加されて、輪を大きくしてください。

学 術 集 会 後 記

事務局長 楠 本 久 美 子
(四天王寺国際仏教短期大学部)

大阪は第2回研究大会に続いて、2度目の担当となりましたが、学術集会が滞りなく終わることができましたのは、一重に貴重な時間を割いてご参集くださった会員の皆様方のお陰と感謝しております。

学術集会が爽りあるものになるよう、実行委員全員が時間をかけて、推考し、準備いたしました。不行き届きの点や、時間制限などもあって、ご不自由をおかけしましたこととお詫びいたします。

実行委員の私たちは、日本養護教諭教育学会の趣旨に沿う今日的な課題とは、新世紀の養護教諭像を構築することだと疑わず、連日、理想的な養護教諭像について議論し合いました。

先人の養護教諭たちが残された業績を温め、新しい養護教諭像を求めるきっかけを作りたいと考えたわけです。実践力が先行し、後から研究と理論が追いかけている。そんな古くて新しい養護教諭の特異性を「養護学」の確立に夢見て、各分野で活躍される方々に討論していただくということになりました。

シンポジウムでは、それぞれのお立場から論じてくださった諸先生方にこの書面をお借りしてお礼申し上げます。各先生方から、貴重なご意見や方向性を示していただき、今後の研究の参考になりました。

研究発表では思いもかけず、多くの方々からご応募をいただき誠にありがとうございました。私は編集の係を担当しましたが、発表原稿とともに励ましや熱意のこもったお手紙を添えていただきました。研究活動を続けながら、児童生徒の健康管理にも情熱を傾けておられる先生方の姿勢に唯々敬服するばかりでした。

学術集会を終えて

実行委員 大道 乃里江
(大阪教育大学)

今回の学術集会では、第2回研究大会に続き、2度目の実行委員をお引き受けする運びとなりました。第8回実行委員会としましては、会員数が400名に達する現在、他の大規模な学会に準じるような運営をして行かなければならない時期に差し掛かっているのではないかと、というのが、当初からの見解でした。本学会設立当初から引き継がれている暖かみのある手作りの部分を残しながらも、大所帯にも対応できる組織的な運営を考えて、松嶋実行委員長をはじめ実行委員の先生方と数回の実行委員会の中で討議して参りました。その中で、参加費の前納制や展示等、本実行委員会としてできる限りのことを導入する旨、決定致しました。私自身は、受付けと会計を主に担当致しましたが、受付けに関しましては、前納者と当日参加者の受付け場所が分かりづらく、若干混乱を来したことを反省しております。また、参加費前納の先生方にご迷惑をおかけしましたことも否めず、大変申し訳なく思っております。会計面に関しましては、当日の参加者が当初の見込みよりも少なかった(天候のせいもあるかと思われませんが)ものの、実行委員の先生方のご尽力により広告・協賛等で多くの収入を得ることができ、ほっと胸を撫で下ろしております。あと、私個人と致しましては、実行委員として学術集会の運営に再度参加させて頂き、多くの先生方にお会いでき、多くのことを学ばせて頂いたことを大変感謝しております。ご参加頂いた先生方には、いろいろご迷惑やご不便をおかけしたとは存じますが、皆様のお陰で無事本研究大会を終える事ができ、今は感謝の念で一杯です。有難うございました。



参加者の声

得るものが多かった養護教諭教育学会

石走 知子

(愛知教育大学大学院院生)

「養護教諭教育学会にそろそろ入会しておこうかな」と思っていた8月末、前理事長の堀内久美子先生に偶然お会いしましたところ、あれよあれよという間に手続きをして下さり、第8回養護教諭教育学会にも初参加することになりました。このハーモニーの原稿も学会当日さっそく渡され、養護教諭の先生方の手回しの良さはやはりさすがというしかありません。

初めての養護教諭教育学会では、21世紀の養護教諭像、学問としての「養護学」など、幅が広くて深さのある論題に新しい視点を加えて聞くことができました。特別講演の森田洋司先生のお話は、大阪人ならではの楽しい話しぶりで、子どもたちをいかに援助していくかという論点とともに、養護教諭の存在肯定感をも高めていただけるような内容で本当に感激しました。一般演題では、自分の研究テーマでもある病気を持つ子どもへの支援に関する発表からいくつかのヒントを得ることができました。

また会場では、養護教諭をしていらっしゃる大学院の修了生の先輩にお会いし、現場のお話を聞いたり、研究について語りあうこともでき、ちょっとした同窓会のように楽しく過ごせました。初参加の養護教諭教育学会で得たものは本当にたくさんあったと感じます。

今、養護教諭の活動に関する研究は実践分析期から理論草案期に入ってきていると言われております。養護教諭の先生方が研究者として、想像力豊かに、繊細に、大胆に、概念の構築を図っている最中とされている最もエキサイティングで弾みのあるこの時期に直接立ち会うことのできる光栄を、今後、この養護教諭教育学会で満喫していきたいと思っています。

学術集会の感想

小山 和 栄

(岡山市立津島小学校)

「21世紀の養護教諭像を求めて」というメインテーマのもと、2000年9月9日(土)ホテルアウイーナ大阪を会場に、第8回大阪学術集会が開催されました。

シンポジウムは、「養護学の確立を目指して」というテーマで、4人の異なる立場の先生からご提言がありました。「養護学」という言葉については賛否両論あり、フロアとの活発な意見交換がなされましたが、養護教諭の学問体系の必要性については、十分に共通理解がなされたように思います。「養護学」構築に向けて、大谷先生が養成(研究)機関や現場の抱えるそれぞれの問題をあげられましたが、今後、解決に向けてより具体的なお互いの連携や取り組みが必要であると感じました。

シンポジウムを聞きながら、「守備範囲が広がり過ぎて、『養護をつかさどる』って何?とますます焦点が合わなくなる不安がよぎる」との松嶋先生の文章が脳裏に浮かび、実践研究のあり方について大いに考えさせられました。

そして、後藤先生の「実践を分析することにより、学問体系が生まれ、よりその学問を確立するために、また実践へのふり返りに立ち戻る」のご発言に、改めて実践研究の重要性を再認識いたしました。

たくさんのエネルギーをいただいた学術集会でしたが、立派な会場で交通の便のよい大阪の地に集まった仲間が、予想より少ないと感じたのは私だけだったでしょうか。現職養護教諭の我々自身が、「養護学」の実践者であることをもっと自覚すべきだと痛感いたしました。来年の神奈川大会では、もっと多くの現職養護教諭の方と語り合いたいと願いました。

学術集会に参加して

池田 みすゞ

(長野県岩村田高等学校)

第8回学術集会に参加させていただきました。朝から昼休みも短縮しての過密スケジュールでしたが、年に1回のこの機会を無駄にしたくないという気持ちで聞き入っていました。

私が印象に残った事としてシンポジウム「養護学の確立をめざして」では、いろいろな立場の先生方が養護学確立に向けての思いを述べて下さいました。日頃忙しさの中で仕事をしていてもふと「養護とは何だろう」と思う事があります。特に今年には底辺校と言われる高校から進学校と言われる高校に転勤したこともあり、一から出発の気持ちで一学期を過ごしました。目先の事をこなすだけでは専門職とはいえない。「養護とは」を踏まえたくて研修し、考え活動し評価し、生徒と接していきたい。そのためにも現場の支えとなる養護学の確立を望みます。

森田洋司先生の特別講演は軽快な大阪弁で楽しく、しかし内容は厳しく日本の実態を分析してはじめ、不登校についてお話いただきました。時間が短く感じられもっとお聞きしたい気持ちにかられましたが、今の自分でもいいと自己肯定できるようやさしく包んで励ます事、集団の中での存在感を持たせる事、原因を探すのでなく学校と結びついているものは何かを探り、それを太くする事など不登校になっている生徒を思い浮かべながらお聞きしました。

この学術集会を企画・運営された先生方、ご苦労様でした。ここで学んだ事を、おいしかったお好み焼きの味とともに私のこれからの活力にしていきたい、来年も参加したいと感じています。

第8回学術集会(大阪大会) アンケート結果

楠本久美子

(四天王寺国際仏教大学)

私たち実行委員は2度目の開催地という経験を活かし、より充実した学術集会にしたいという思いで集まりました。前任校にて「よい歯の学校部門」で優秀賞を授与された小西俊子氏(大阪市立弘済小・中学校)、大阪教育委員会指導主事の佐藤容子氏、コンピューターをいち早く保健の執務に取り入れた辻立世氏(大阪府立鳥飼高等学校)、全国養護教諭連絡協議会副会長の徳山美智子氏(大阪府立桜塚高等学校)らベテランの養護教諭たちと、岩堂美智子(大阪市立大学)、大道乃里江氏(大阪教育大学)美馬信氏(大阪女子短期大学)山本瑛子氏(関西女子短期大学)らの養護教諭養成機関の教員たちの10名でした。

私たちは入念な準備に誠意を込めて、会員の皆様方をお迎えしたいと思い、学術集会として満足していただける時間と場所を提供しようとありとあらゆる知恵と労力を出し合いました。

学術集会には、北は北海道から、南は沖縄まで、190人の方がご参加くださいました。ありがとうございます。その内の25名の方から貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

アンケートの結果は次の通りでした。

回答者数 25名

1. プログラムの構成について

- ① 満足9 ② 普通11 ③ 不満足4
④ 無回答1 ・意見あり：13
意見の約半数が「量が多かった」と時間の少なさを指摘していた。

2. シンポジウムについて

- ① 満足7 ② 普通14 ③ 不満足3
④ 無回答1 ・意見あり：17

意見の三分の一が「参考になったあるいはすばらしかった」と評価していた。

3. 共同研究について

- ① 満足9 ② 普通12 ③ 不満足1
④ その他1 ⑤ 無回答2 ・意見あり：15
意見の約半数は「参考になった」あるいは「時間が短い」と回答していた。

4. 一般の自由研究について

- ① 満足6 ② 普通9 ③ 不満足2
④ その他1 ⑤ 無回答7 ・意見あり：10
半数が一般研究と同様に「時間が短い」と指摘していた。

5. その他の意見 14 無回答7

特別講演は好評で、講演以外にも良い評価を得た。

6. 学術集会を何で知ったか

- ① 友人から2、学校宛ての案内で2
② その他6 ③ 無回答14

大半の方が「満足」「普通」と回答されましたが、研究発表の時間配分については今後の課題として検討する必要があると考えています。

アンケートにご協力くださった方々にお礼申し上げます。

第8回学術集会に参加されなかった学会員の方に、抄録集を販売します。基調講演、記念講演、シンポジウム、学会共同研究や一般の研究発表の内容が盛り込まれています。学会誌にすべて掲載されるわけではありませんし、参加されなかった学会員に郵送されるものでもありません。ぜひ、この機会に購入されることをお勧めします。ご希望の方は、下記までFaxでお申込みください。1冊1,000円です。

0729-78-3606(松嶋研究室)
抄録集と振込用紙をお送りします。

ホットニュース

最近のトピックス

(2000年8~10月)

①8月29日に第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画(2001年~2005年の5年計画)が公表されました。以下にその要点を示します。

〈養護教諭に係る改善内容について〉

- ◆配置基準が学級から児童生徒数になった。
- ◆複数配置の基準が30学級以上の学校から、小学校851人・中学校801人・特殊教育諸学校61人以上の学校になった。
- ◆健康課題のある学校への加配措置が初めて養護教諭にも適用されることになった。
(47都道府県に各4人188人)

- ◆複数配置の改善数1162人
(小中学校974・特殊教育諸学校188人)
- ②10月に全国養護教諭連絡協議会の特別委員会として「養護教諭の職務検討委員会」が設置されました。趣旨は、新しい養護教諭のあり方を構築するために調査・研究を行い、体系化・理論化を図っていくそうです。全養連の研究成果に期待するとともに、本学会においても、多くの養護教諭の方々の参加を得ながら『養護学』の確立に向けて、共に努力して行きたいものです。

(文責：石原)

教育職員免許法改正に伴う 養護専門科目充実に関する 意見書について

本学会は養護教諭教育に関する研究を進める学会ですので、養護教諭教育における教免法の問題は学会としても最大の関心事であります。よりよ

い養護教諭教育を目指して、本学会としてはどのような教免法の内容が望ましいのかを提言できるような研究成果を積んでいくことが課題となります。

ところで、今回の教免法改正は、教職員の「実践力の基礎を育成する」ことを主眼に、教職科目の増大が大変換点であります。一方では逆に専門科目履修単位の削減となり、各養成機関においては専門性の向上に向けて苦労するところとなります。特に養護教諭免許に関しては、今回の改正により、新たに「養護概説」と「健康相談活動の理論及び方法」が規定されましたが、これらの両者の授業科目を核にしながら専門科目の構成をわかり、養護教諭としての資質を向上させることのできる教育課程を策定することができれば、よりよい養護教諭教育に向けて一步前進できるのではないかと期待するところです。

今回の教免法改正で、新たに課程認定作業が進められてきていますが、この機に、養護教諭養成課程の課程認定を受けた機関・受けようとする機関が多くなっています。このような背景には、入学者の拡大をはかることのために、安易に資格・免許を授与しようとしている機関があるのではないかと、懸念されるところです。

上記のような状況は、よりよい養護教諭教育を研究課題とする本学会としては、看過できない事態です。

そこで、第9回総会において、学会名でこのことに関する意見書を出すことを提案いたしましたところ、会場からは、もっと強い要望を出すべきという意見や、逆に慎重であって欲しいという意見などが出て、文面については、理事会に委任されました。理事会として検討を重ねた結果を次に示します。もし、このことについてご意見・ご要望などがありましたら、12月15日までに事務局宛ご連絡下さい。

2000年9月9日

養護教諭の養成教育に関わる
関係者ならびに関係機関 各位

日本養護教諭教育学会
理事長 大谷 尚子

教育職員免許法改正に伴う養護専門科目の充実に関する意見書
—「養護概説」と「健康相談活動の理論及び方法」の開講にあたって—

日本養護教諭教育学会は、わが国の養護教諭教育に関する研究を推進するための学術団体であり、養護教諭養成教育にかかわる大学等の教員をはじめとして、教育行政関係者、現職養護教諭およびその他の人々によって構成されています。

このたびの教育職員免許法（以下、教免法と略す）改正に伴い、養護教諭養成教育に関わる関係者ならびに関係機関の一層のご理解を賜りたく、日本養護教諭教育学会として以下のとおり意見書を提出させていただきます。

今回の教免法の改正内容においては、「養護に関する専門科目」で、新たに「養護概説」と「健康相談活動の理論及び方法」の2科目が規定されました。このことは養護教諭固有の学問体系の提起であり、かつ心身両面にわたる健康相談活動は養護教諭の実践に欠かせない活動として明確に位置づけられたものと言えます。すなわち、養護教諭養成教育の歴史においてきわめて画期的な意味をもち、今後の養護教諭養成教育の良否を左右するほどの重大な意味をもつと考えます。

さて、わが国の養護教諭養成教育は多様な養成機関で行われているのが実情です。それぞれの養成機関では、各自の教育目標に加えて教免法の規定を満たすことは最低限必要な要件ですが、専門職養成という役割を果たすには、養護教諭養成教育の充実をはかり、各養成機関において養護学の体系化を意識した授業内容が必要です。とりわけ、「養護概説」と「健康相談活動の理論及び方法」は養護の理念や養護教諭の実践の原理と方法を取り扱うものであり、養護学の鍵となる科目といえます。学生が「養護とは何か」を考え、その体系的知識と技術を習得できるようにするには、授業担当者は養護教諭の専門分野についての研究的、実践的な識見を有し、養護教諭養成のための教育と研究を積極的に推進する人であることが望まれます。

今後、益々期待される役割をもつ養護教諭の養成教育への責任は重大であります。養護教諭養成の課程認定を受けた全ての機関は、教免法改正の趣旨を理解し遵守することが最低限度の責任と捉える必要があります。とりわけ今回新規開講された2つの科目については、その徹底・遵守を強く要望する次第です。

以上、養護教諭の養成教育に関わる関係者および関係機関の皆様にご尽力方とその徹底方をお願い申し上げます。

「養護教諭の英訳および本学会の 英名に関するワーキンググループ」 の参加者募集について

第9回総会において、上記ワーキンググループの結成に関する提案がハーモニー 23号でお知らせした原案のとおり承認されました。

そこで、次のような要領で参加者を募集したいと思います。ただし、学会から助成される運営費用は5万円ですので、参加に伴う旅費は自己負担となります。

◇申し込み期日

2000年12月15日(金) 必着

◇申し込み方法

「ワーキンググループへの参加希望」と書き、氏名及び所属機関、連絡先住所とTELを明記して、郵便にて送る。(ハガキで良い)

◇申し込み先

日本養護教諭教育学会事務局

◇任期は、第10回総会までを予定しています。

◇会合は、理事会開催日程に合わせて行いますので、初回会合は2001年2月上旬の予定です。

◇会合場所は、横浜市内または東京都内です。

学会共同研究 「健康教育に必要な養護教諭 の能力について考える」 の研究員決定

第9回総会にて報告したとおり、定員を超える方からの応募がありましたが、「先着10名以内」という募集条件により、以下の方々が承認されました。(50音順・敬称略)

池田みすゞ(長野県岩村田高等学校)

入駒 一美(岩手県立黒沢尻南高等学校)

河内 信子(岡山大学教育学部)

工藤 宣子(岩手県立大学看護学部)

小林 央美(青森県総合社会教育センター)

斎藤ふくみ(熊本大学教育学部)

栩野千恵子(大阪市立友渕小学校)

中西美恵子(瀬戸内短期大学)

万城公美子(岡山市立西大寺中学校)

山名 康子(大阪教育大学附属平野小学校)

以上10名

「第9回学術集会の企画に対する要望」

の募集

竹田由美子実行委員長のもと、第9回学術集会が2001年10月6日～7日に神奈川県で開催されます。つきましては、「シンポジウムのテーマ」等の企画に対する要望を募集致します。「こんな学術集会にしてほしい」という積極的なご意見をお待ちしています。

◇締め切り

2000年12月22日(金) 必着

◇申し込み方法

提案者の氏名及び所属機関を明記し、郵便またはFAXにて送る。

◇申し込み先

〒241-0815

横浜市旭区中尾1丁目5-1

神奈川県立衛生短期大学 竹田由美子宛

FAX(大学事務) 045-362-8785

事務局より

学会誌と学術集会研究抄録集のバックナンバーが事務局にあります。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。代金は、学会誌第2巻・第3巻は2,500円、学術集会抄録集第6回・第7回は各1,000円です。